

The 10th Scientific Chapter Meeting, The Chubu Chapter of Japan Association for Medical Informatics

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45350

『学会開催報告』

第10回日本医療情報学会
中部支部会学術集会The 10th Scientific Chapter Meeting,
The Chubu Chapter of Japan Association
for Medical Informatics金沢大学附属病院経営企画部
長 瀬 啓 介

第10回日本医療情報学会中部支部会学術集会が1月23日土曜日、金沢大学附属病院宝ホールにて開催され、北陸地区、東海地区を中心に、日本医療情報学会員、医療情報技師など、101名の参加があった。

長瀬啓介が学術集会長として挨拶したあと、木村通男中部支部会長(浜松医科大学医学部附属病院医療情報部長)からご挨拶をいただき、「金沢大学附属病院における病院情報システムの特徴とその運用」と題して、山岡紳介(金沢大学附属病院経営企画部副部長)が金沢大学附属病院総合病院情報システムの概要について講演した。山岡は講演の中で、病院ネットワークに新たにOpenFlow技術を導入し、冗長性に優れていると同時に、医療機関においては国内最大規模のネットワークであることを紹介した。

その後の、一般演題では6題の発表があった。中川肇先生(富山大学附属病院)は、「電子カルテシステムのリプレースに関する知見」と題して、電子カルテシステム更新に伴うデータ移行時の注意点やリハーサル的重要性について発表された。渡辺浩先生(国立長寿医療研究センター)は、「国立長寿医療研究センターでの研究支援インフラ構築の取り組みについて」と題して、バイオバンクプロジェクトにおける匿名化済みデータベースの導入とデータベースシュアリングの仕組みの構築について発表された。木村通男先生(浜松医科大学医学部附属病院)は、「レセプト情報データベースを用いた調査 - 紹介時同月内異施設同一検査実施状況 - 」と題して、レセプト情報データベースを用いて、同一患者に対する重複検査の実態について解析し、不要な検査の頻度について発表された。このほか、中部地区にある3つの医療情報技師会からそれぞれの活動状況について発表があり、今後の3技師会の連携と、全国規模での発展性についても報告された。

特別企画は、木村通男先生(浜松医科大学)と長瀬啓介の司会で、「いしかわ診療情報共有ネットワークを考える」をテーマに、パネルディスカッションが行われた。

長瀬啓介が本パネルディスカッションのねらいを説明したのち、最初に、「いしかわ診療情報共有ネットワーク概要」として、山岡紳介が、システム構成や機能、運用について講演した。

続いて、「いしかわ診療情報共有ネットワーク」を管理・運営する立場より、石川県医師会理事 佐原博之先生(さはらファミリークリニック 院長)が、「いしかわ診療情報共有ネットワークの現状と今後の展開」と題して、導入経緯と現状、そして、今後予定している訪問看護ステーションとの連携実証事業などについて講演された。

次に、「大学病院の立場から 金沢大学継続診療支援シ

ステム」と題して、長瀬啓介が、金沢大学附属病院の患者背景や「いしかわ診療情報共有ネットワーク」の基盤となる「たまひめねっと」を中心に同意取得患者数などについて講演した。

さらに、「地域支援病院における情報連携：始動から10年を迎えて」と題して、横山邦彦先生(公立松任石川中央病院 甲状腺診療科・医療情報部 副院長)が、地域の中心的な医療機関として2006年より稼働させた画像に特化した連携システム(ねっとPET)を中心に導入経緯や現状等について講演された。また、調剤薬局との診療情報共有の検討結果についても報告された。

最後に、「診療所からみる医療ICTの現状と課題」と題して、大野秀棋先生(大野内科医院 院長)が地域を支える医療機関の立場から講演された。「いしかわ診療情報共有ネットワーク」と協調的に運用されている金沢市医師会が管理運営しているハートネットホスピタルを中心に説明され、今後の病床機能再編と地域包括ケアシステムにおいてコミュニケーションツールとしての有用性を強調された。

以上の「いしかわ診療情報共有ネットワーク」を中心とした講演ののち、木村通男先生が「地域医療情報連携の実情」と題して、各地域で稼働している地域診療情報連携システムの稼働状況と今後の方向性について講演され、総合討論に移った。

総合討論では、いしかわ診療情報共有ネットワークが供用される以前に期待された以上の利便性を提供しており、今後の活用により一層患者の診療の円滑が推進されることへの期待が述べられるなど、熱い討論が行われた。

当地域で導入されている「いしかわ診療情報共有ネットワーク」は、情報提供病院32施設、情報閲覧医療機関395施設と全国的にも最大級の規模である。また、その運営として石川県医師会と金沢市医師会が協調的関係にあることは他の地域に誇れるものであることを、今回のパネルディスカッションを通して改めて実感することができた。

パネルディスカッションの後、第21回日本医療情報学会春季学術大会(平成29年開催)を担当される山下芳範先生(福井大学医学部附属病院 医療情報部副部長)が挨拶をされ、学術集会の全ての企画を終了した。

